和白干潟通信
愛して、わじろ

No.131

２０１９年7月１６日
発行: 和白干潟を守る会

〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

和白干潟の自然観察会（和白干潟のお話）

夏休み！

★和白干潟の生きものやハマボウを見る会★

夏の和白干潟にはカニや生きものたちがいっぱい！唐原川河口から黄色いハマボウの花が咲いている牧ノ鼻までの浜辺を歩きながら観察しましょう。牧ノ鼻海岸では岩場の生きものにも会えますよ！牧ノ鼻はハマボウの大群落地になっており、７月には黄色い美しい花がたくさん咲きます。毎年見守ってきました。観察の後にはお掃除もしましょう！和白干潟は「にほんの里１００選」に選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生きものの宝庫の和白干潟を、みんなで守っていきましょう！

●とき：７月２０日（土）15:00～17:00 受付は14:45～、雨天中止、小雨決行

●集合：香住ケ丘公園（東区香住ケ丘４丁目） 西鉄貝塚線「唐原駅」「香椎花園前駅」より徒歩７分

※今回から集合場所が変わりました。ご注意ください！

●観察場所：唐原川河口～牧ノ鼻海岸

●講師：藤井暁彦 氏（九州環境管理協会）

●参加費：無料
●持ち物：水筒、軍手、筆記具、（あれば）虫めがね、タオル
●服装：歩きやすい服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴
●主催：和白干潟保全のつどい（和白干潟を守る会ほか）
●問い合わせ：TEL:090-8412-2663（山之内）

ハマボウの花

第２２期　和白干潟の自然観察ガイド講習会「カニの生態を学ぼう！」報告

（有江 圭子）

6月30日（日）和歌山大学教授の古賀庸憲氏を講師に迎え、10名の参加者で講習会がありました。山本代表が「九州大学学生の時に和白干潟でコメツキガニの研究をしてある先生と出会い、観察会の講師などをしてもらったりしました。今でも和歌山で観察会をしてあります。今日はカニなどの生きものの生態を教えていただきたいと思っています」と挨拶しました。講義では、ハクセンシオマネキやチゴガニの求愛ダンスの動画があり、みんなが同時にハサミを振るとメスはそれにひかれてオスのところに寄ってくるそうです。事前に先生へ送っていた質問について、カニの寿命、カニの産卵数、和白干潟のカニの種数、幼生を海に放さないカニについて、カニは冬はどう過ごしているか、カニは食べられるかなどの話を聞きました。

その後、干潟に移動して、小雨の中フィールド学習をしました。干潟にはコメツキガニの巣穴が無数にありました。穴の数だけカニがいて生きものが活動してることは、環境をきれいにしているということだそうです。黒い砂のところは酸素が足りないが、生きものが砂を掘ることで耕し、きれいにして海の浄化に貢献しているとのことでした。先生が捕まえたマメコブシガニのお腹をホソウミニナの尖ったところでカパッと開けてみると、卵が入っているのがわかりました。オスのマメコブシガニやアシハラガニやケフサイソガニもお腹を開けて見せてもらいました。海の広場で記念写真撮影をしてきりえ館に戻り、コメツキガニが砂団子を作っている様子の動画を見せてもらいました。和歌山の干潟観察会の様子も紹介されました。話に聞き入っているうちに終了の時間がきてしまいました。今村さんが「大雨警戒の中でしたが、干潟に出て観察することが出来ました。話が尽きませんでした。今日はありがとうございました」と閉会の挨拶をして終わりました。TNCテレビから取材に来られ、講習会の様子は夕方のニュースで放映されました。（有江）

クリーン作戦報告

４月27日（土）「干潟・湿地を守る日２０１９」「全国春のビーチクリーンアップ２０１９」参加

参加者236名、回収ゴミ200袋。本日のクリーン作戦は、「干潟・湿地を守る日」「全国春のビーチクリーンアップ」参加のクリーン作戦でした。福工大付属城東高校、九産大の宗像ゼミ、澤田ゼミの先生と学生のほか、西日本シティ銀行和白支店の方などの参加がありました。

初めに「干潟・湿地を守る日2019」の宣言文を読みあげ、清掃の範囲や方法などの説明をして清掃活動に入りました。今回は参加者が多かったので何時もは出来ていない和白方面も清掃しました。1時間半ほどで干潟は見違えるように綺麗になりました。最後にお茶で喉を潤してから本日の成果を報告、参加者の感想を聞いた後、記念写真を撮り散会しました。感想では、全体に思ったより人工ゴミが少なかったとのことでした。（田辺）

６月23日（日）「ラブアース・クリーンアップ２０１９」参加

参加者34名、回収ゴミ73袋。今年は、和白4区町内会の他に、香住ヶ丘のガールスカウト第24団も参加されてのラブアース・クリーンアップ。ゴミの回収ルールを説明した後ゴミ拾いにかかりました。前日の守る会のクリーン作戦で清掃したばかりで、プラスチックゴミがほとんどなかったため、アシ原に打ち上げられた草木ゴミを主体に回収することにしました。

1時間半ほどで終了し、集まったゴミは燃えるゴミ71袋、プラスチックゴミ1袋、空き缶・ビンなどのゴミ1袋でした。ガールスカウトの子どもたちは、お母さんと一緒にゴミ拾いをしていましたが、皆さん良く頑張っていました。（山之内）

★ 観察会報告（2019年5月～６月）★

（今村 恵美子）

５月28日（火）香椎保育所さくら組（年長児）40名と先生５名と保護者３名

山本さんが子どもたちの前に立つと、一人の子が山本さんのカモ笛を見つけて「何、それ？」と指さしていました。カモ笛の音を興味深く聞いていました。干潟の話の後、望遠鏡でカワウやアオサギを見ました。望遠鏡に慣れていなくてなかなか鳥を見ることができず、苦心している子もいました。沖でアサリを掘ると、次々とアサリが見つかり、浄化実験のペットボトルに入れました。みんなひたすら貝を掘っていました。次第に見つけるのが上手になり、貝を見つけると得意げな顔をしていました。砂洲にはコメツキガニの巣穴がたくさんありました。スコップで穴を掘るとすぐにカニが見つかり、「カニ、ゲット！」と言ったり「先生、はい、カニですよ」とバケツに入れていました。気が付くと砂洲全体がスコップで掘った穴だらけになっていました。アシ原でアシハラガニを見つけると、大きい歓声が上がりました。

最後の挨拶で子どもたちは「楽しかったです」と言っていました。先生も「大人が夢中になりました」と言ってありました。「また来た時、カニを見つけようね」と言いながら帰っていきました。観察会はいっぱい穴掘りをして、貝やカニに出会えた楽しいひとときだったようです。（有江）

６月12日（水）和白小学校５年生１２５名と先生５名

子どもたちは山本さんの和白干潟の話を真剣に聞いていました。バードウォッチングでは奈多方面の廃船のところにいるカワウを見てもらいましたが、遠かったので、少し見づらいようでした。アシ原でアシハラガニを見つけると「ほんとやん、いる！」「めっちゃ、いる！」と喜んでいました。砂洲に行くとコメツキガニがたくさんいて、みんなもれなくコメツキガニを捕まえることができて大喜びでした。沖でアサリを掘ると、次々と見つかり、子どもたちはスコップにアサリをいくつものせて満足していました。和白川のハクセンシオマネキを望遠鏡で見せると「メチャクチャいます！」「可愛かった！」「(事前学習の)ビデオで見た！」「本当やん、すごい！」とみんな感激していました。最後にまとめをして、捕ったカニや貝をみんなに見てもらいました。浄化実験は大成功で「わー、きれいになっている」とみんなで確認しました。「昔はいたけれど今はいない生きものは何ですか？」「守る会はどういう思いでやっていますか？」などたくさんの質問が出ました。最後に挨拶をして子どもたちは学校へ戻っていきました。干潟には一面コメツキガニの穴があり、カニが穴に入ったり出たりしていました。干潟が生きものの宝庫だなあと感じる時でした。（有江）

６月８日（土）初夏の和白干潟（雁ノ巣海岸）観察会　山・川・海の流域会議主催

曇り空の下、雁ノ巣リクレーションセンター駐車場に10人が集合し、「山・川・海の流域会議」主催の初夏の雁ノ巣海岸自然観察会がありました。砂浜にはたくさんのスナガニの大きな穴があり、大きなコウイカが3匹打ち上げられていました。テリハノイバラが白い花を咲かせ、ツルナがたくさん生え、ハマユウの花も咲きだしたところです。砂州では、ハマゴウが群落をつくっていました。他にも、ネコノシタ、カワラヨモギ、ハママツナ、オカヒジキ、イソホウキギなどを観察。外来種の大きなウチワサボテンが鮮やかな黄色い花を咲かせ、赤いつぼみもたくさんありました。砂州の先端には、これまで見たことのない浅いプール（水たまり）が出現していました。10mくらいの長さで海水が端から流れ込んでおり、中にはたくさんのミズクラゲがいました。外来植物が増えたことには驚かされます。今回「アメリカネナシカズラ」という黄色のビニールひものような植物がハマゴウに巻き付いているのを何か所も見ました。立花山を背景にみんなで記念写真を撮り、松の木の下でお弁当を食べてから、たくさんのごみを拾いながら帰りました。参加者が予想外に少なく、和白干潟を守る会のメンバーだけだったので残念でした。もっとたくさんの人に雁ノ巣海岸の自然を知ってもらいたいものです。（今村）

★ 和白干潟の自然だより ★（山本 廣子）

ハマゴウ（クマツヅラ科）

ハマゴウ

海岸の砂地に生える小低木です。茎は長く横にはい、枝は立っています。高さは30ｃｍ～６０ｃｍ。葉は上面が緑で下面は毛が生えていて白っぽいです。夏から秋にかけて淡紫色の花が咲きます。和白干潟のアシ原の中道奥には大きな株になったハマゴウがあり、栄えています。また海の広場近くの小石の護岸にも、たくましくハマゴウが根付いています。雁ノ巣の砂浜では特別大きな群落になっています。秋から冬には丸い実がなり、熟れると赤っぽくなります。もむと強い香りがあり、枕に入れると良く眠れるそうです。

ミズクラゲ（ミズクラゲ科）直径１５～２０cm。

ミズクラゲ

春から夏にかけて、 和白干潟に現れるクラゲです。たまに大発生して、沿岸に並んで打ち上げられています。かさの中に薄紫色の４つの丸い輪があり花の模様のようですが、これは生殖腺だそうです。この４つの丸い輪でヨツメクラゲという異名があるそうです。海にフカフカ浮いていますが、沿岸に打ち上げられると自力では戻れずに死んでしまい、しばらくすると丸い跡形だけが残って乾燥してしまいます。いろんな生き物がいるものですね。和白干潟では他には、早春にカミクラゲを見ることがあります。唐原川河口ではクシクラゲがいることがあります。ミズクラゲと同じ頃には毒のあるアカクラゲもいますが、ミズクラゲほど多くはありません。

ハクセキレイ（セキレイ科） 全長２１ｃｍ。

ハクセキレイ

以前は和白干潟では冬鳥だったそうですが、現在は留鳥として１年中和白干潟で見られます。河口や干潟沿岸に生息していて、繁殖期にはつがいで行動し、非繁殖期には１羽でいるのが普通です。常に尾羽を上下に振りながら歩きます。雄の夏羽は、頭上から背、尾は黒く、腹は白いです。雌は少し薄めです。海岸、川岸、水田などの水辺で昆虫や水性昆虫類を採食します。和白川河口や唐の原川河口、アシ原付近の海岸、護岸の道でも見られます。飛ぶ時は波状飛行になります。チュチュン、チュチュン、チュイチー等とさえずります。工場や橋、電線などの建造物の棚や街路樹などを集団ねぐらにしていることで、騒音問題になっていましたが、最近は余り聞かれなくなりました。数が減ってきたのでしょうか？

★夏の和白干潟のしぜん情報★

ハマナデシコ

夏のアシ原は、アシが丈高く伸びて鮮やかな緑色です。やぶになるので、アシ原中道には入りにくくなります。アシ原の中ではハマナデシコやハマゴウの花が咲きます。牧ノ鼻の海岸にハマボウの黄色い花がたくさん咲きますが、海の広場付近にも広がってきました。和白干潟の沿岸が、黄色いハマボウの花で縁取られるようになるかもしれませんね。

暑くなると、ウミニナの仲間が干潟上を埋め尽くします。潮が引くと沖の干潟にはタマシキゴカイの糞塊が月面のでこぼこのようにたくさんできています。浅瀬ではマメコブシガニ。干潟にはコメツキガニの巣穴と砂団子。和白川河口ではハクセンシオマネキ。アシ原付近にはアシハラガニ。カニたちは、環境によりすみわけています。和白干潟は生きものでいっぱいです。

夏鳥として渡ってきたコチドリが繁殖しています。オオヨシキリはアシ原で繁殖しますが、今夏は少ないようです。サギ類は夏期に多く見られます。今夏はミヤコドリは無事に渡って行ったようで、越夏していません。

（今村 恵美子）

★和白干潟を守る会リーフレット「環境教育シリーズⅠ」改訂版を発行

自然観察のリーフレット「環境教育シリーズⅠ」を4月に改訂しました。この環境教育シリーズは観察会の教材として事前学習や事後学習などに活用されるように作成しています。和白干潟を守る会では1997年より独自の環境教育カリキュラムを開始、「環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム）、Ⅱ（水鳥、底生生物、植物の図鑑）」を発行し、今回で5版を重ねています。会員の方には干潟通信とともにお届けします。

★7月から和白干潟を守る会は「定例会議の開催時間を変更」します！

これまで定例会議は第4土曜日の10時30分～13時、クリーン作戦と自然観察は15時～17時としていましたが、7月から定例会議を「12時30分～14時30分」に変更し、クリーン作戦と自然観察は従来通り15時からです。「土曜日午前中からほぼ1日参加は厳しい」「若い層が参加しにくい」との声が上がり、定例会議で協議の結果、通信でお知らせしてからということになり、7月から実施することになりました。

守る会は年齢性別経験を問わず、清掃活動だけでなく様々な活動をしています。どうかこれを機会にぜひ定例会議への参加をお願いします。新たなパワーを待っています！

★プラスチックごみ問題に国も危機感

プラスチック製品が海に到達してマイクロプラスチックとなり、生態系への深刻な影響が明らかになっています。国内では年間約900ｔのプラごみが発生、国民１人当たりの使い捨てプラごみ量は世界第2位と言われます。和白干潟を守る会も毎月のクリーン作戦に取り組んでいますが、プラごみは増え続けています。これまでリサイクルという名目でプラごみが中国に輸出されていましたが、中国もプラごみ輸入を禁止しました。やっと日本政府も2050年を目標に「プラスチックの海への流出０」を目指す方針を出しました。レジ袋も来年夏には無償配布が禁止されます。プラスチック製品を使わない、作らない、国内で処理することが必要です。規制が厳しくなればさらに不法投棄が増えかねません。和白干潟を守る会はプラごみ問題について干潟の現状を公表し、使い捨てをやめるよう呼びかけていきます。

★諫早湾開門を最高裁が認めない判決？

諫早湾開門を命じた確定判決の効力をなくすよう求めた国の訴えについて異議訴訟を起こしている漁業者側と国の意見を聞く弁論が７月２６日に開かれます。しかし、６月２６日に最高裁は別の開門訴訟に対し、理由を明らかにせず「非開門」の判決を出しました。訴訟が複雑に入り乱れた中で、初めての最高裁としての判断です。まだ訴訟が続く中でこの判決がどのような影響を与えるのか不信感を抱きます。

和白干潟を守る会は、潮受け堤防が閉ざされた日を「干潟・湿地を守る日」として毎年４月の第４土曜日のクリーン作戦で宣言文（和白版）を読み上げ、開門して干潟を守ることを求めています。（今村）

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサなどをとってほしい時
・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局・維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153（港湾空港局・みなと環境政策課）

●弱った野鳥を見つけた時→ 092-513-5611(福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)
092-643-3367(福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

＊＊ ***お　願　い*** ＊＊

●干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！
とても危険です。

●干潟で火気を使うことはやめましょう！
（花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと）
火災の危険があります。

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

活　動　日　誌

（山之内 芳晴）

●2019年3月

3/2　（土）　和白干潟通信130号編集会議
3/9　（土）　山・川・海の流域会議総会参加
3/10（日）　名古屋市の藤前干潟を守る会ガタレンジャーを和白干潟に案内
3/14（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
3/17（日）　環境保全活動団体交流会参加
3/19（火）　和白小学校5年生の和白干潟観察会まとめの発表会
　　和白干潟通信130号編集会議
3/23（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
3/30（土）　JAWAN総会とシンポジウム「日本の湿地を守ろう　2019」参加
～4/1（月）　沖縄県立石垣青少年の家にて（沖縄県石垣市）
3/31（日）　日本野鳥の会福岡支部総会参加

●2019年4月

4/3　（水）　イオン黄色いレシートキャンペーン2018年度分贈呈式
4/7　（日）　2019年春期シギ・チドリ調査1回目（今津）
4/9　（火）　観察会グループ会議
4/10（水）　イオン黄色いレシートキャンペーン
4/11（木）　イオン黄色いレシートキャンペーン
　　「和白干潟保全のつどい」会議参加
4/14（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）
4/15（月）　2019年春期シギ・チドリ調査1回目（博多湾東部）
4/16（火）　干潟通信130号発送会
4/23（火）　観察会案内発送（一部）
4/24（水）　和白干潟のRKBラジオ鉄塔の定期点検工事説明会
4/27（土）　定例会議・「干潟・湿地を守る日」「春のビーチクリーンアップ」参加の和白干潟クリーン作戦と自然観察
　　2019年春期シギ・チドリ調査2回目（今津）
4/30（火）　2019年春期シギ・チドリ調査2回目（博多湾東部）

●2019年5月

5/5　（日）　2019年春期シギ・チドリ調査3回目（今津）
5/9　（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
5/11（土）　山・川・海の流域会議参加
　　イオン黄色いレシートキャンペーン
5/12（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）
5/14（火）　2019年春期シギ・チドリ調査3回目（博多湾東部）
5/25（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
5/28（火）　香椎保育所さくら組の和白干潟観察会

干潟のつぶやき「お菓子の包み紙を紙製品に変えて！」

マイクロプラスチックによる海洋汚染が世界中で問題視されています。この問題について最近、政府が全国一律で「レジ袋の有料化」を検討しているとのニュースが新聞紙上を賑わしています。マイクロプラスチック問題が騒がれる時、よく上げられるのが、レジ袋やストローですが、干潟の生きものから見ていると、本当にそうかな～と思います。和白干潟では毎月、クリーン作戦が行われ、清掃参加されている方たちはレジ袋やストローは確実に拾っておられます。しかし小さなお菓子やあめ玉などを包んでいる包み紙は、小さいだけに拾うのも大変で、中にはゴミだと気づかない人もいるかも知れません。スウェーデンの衣料品販売会社の日本法人が、レジ袋を紙袋に代えたとのニュースも流れていました。小さなお菓子やあめ玉はどうしても包まなければならないのであれば、紙の袋で包んでほしいですね。

和白干潟の清掃活動

活　動　報　告

（山之内 芳晴）

★イオン黄色いレシートキャンペーン2018年度の贈呈式に参加

　イオンでは、毎月11日を「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当の品物が寄贈されます。和白干潟を守る会は毎月２～３名がレジ前に立ち、レシートの投函を呼びかけています。4月3日には、イオン香椎浜店1階の特設会場で2018年度のキャンペーン贈呈式が行われ、店長さんから各団体の代表者にギフトカードが渡されました。守る会は山本代表がギフトカードの贈呈を受けました。贈呈式の中での団体アピールでは、山本代表が、干潟の生きものの手袋人形で分かりやすく簡潔にアピールしました。イオン店の黄色いレシートは全国どこで発行されたものでもかまいません。和白干潟を守る会に送って下さると有り難いです。（松田）

★第１５回くすだひろこきりえ展「和白干潟のかがやき」を開催

　きりえ展は5/1～5/31に福岡市東区のレストラン「花もも」にて開催しました。「花もも」でのきりえ展はもう15回になりました。新作の大小作品１５点を取り混ぜて、飾りました。下の棚では、絵葉書、絵本などの販売や、和白干潟のパンフレットやリーフレットも配布しました。和白干潟を守る会の方々や福岡きりえ同好会の方々、高校の同級生、フラダンスの皆さん、うたごえサロンの皆さんなど関わりのある方々が多数見に来ていただきました。ありがとうございました。

　きりえ作品に関しては「木もれ陽」「ひだまり（ヒドリガモ）」「早春（ハマダイコンとツクシガモ）」「ナンキンハゼの実」「和白干潟夕景」「コガモ」などが人気がありました。芳名録には感想なども書いていただき、嬉しかったです。和白干潟のきりえ展開催で、和白干潟の自然の大切さが広まっていくことを願っています。来年のきりえ展開催まで1年間、和白干潟のすばらしさをきりえにしていきたいと思っています。（山本）

きりえ「ナンキンハゼの実」

守る会問い合わせ窓口　★ホームページ：http ://wajirohigata.sakura.ne.jp/

◎入会／観察会（申込等）	山之内 芳晴	Tel.090-8412-2663
◎クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel.090-1346-0460
◎広報／調査／定例会議	山本　廣子	Tel/Fax.092-606-0012
◎干潟まつり	今村 恵美子	Tel090-3413-6443

【編　　集】 今村恵美子・高田将文・山本廣子・山之内芳晴・有江圭子・田辺スミ子
《カット》くすだ ひろこ　★次号は2019年10月に発行予定★

【編集後記】 夏の和白干潟は生きものたちの宝庫です。干潟の生きものの活動が活発になり、特にコメツキガニは巣穴の周りに沢山の砂団子を作り、足の踏み場もないくらいになります。アシ原ではアシが大きく伸びて、一面濃い緑になり黄緑の爽やかな穂を出し始めます。ハマナデシコも可憐なピンクの花が咲き始めます。生命力を感じる時です。（田辺スミ子）

★お知らせコーナー★

（田辺 スミ子）

★国際ビーチクリーンアップ参加ゴミデータ調査★

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のゴミを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください！

●日時：９月２８日（土） 15:00～17:00
●集合：和白干潟・海の広場
●主催：和白干潟を守る会

和白干潟のエコチャレンジ “アオサのお掃除大作戦”

●日時：9/14（土）、9/29（日）
10/12（土）★14：00～16：00
●集合：和白干潟・海の広場
●主催：和白干潟保全のつどい
●問い合わせ：090-8412-2663（山之内）

★第6回唐原川お掃除し隊★

●日時：１０月６日（日） 10:00～1200
●集合：唐原川上流：九州産業大学東門学友棟入り口
唐原川下流：唐原川右岸浜田橋付近
●主催：山・川・海の流域会議
■問い合わせ：090-2397-1424（松田）

★定例スケジュール★

●定例会議（7/27、8/24、9/28）

毎月第４土曜日12時半～14時半　守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待ってます！

●クリーン作戦と自然観察（7/27、8/24、9/28）

毎月第４土曜日15時～17時　和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利　駐車場なし

●和白海岸探鳥会（8/11、9/8、10/13）

毎月第２日曜日　９時～12時 ＪＲ和白駅前の和白公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部　参加費：一般は３００円、中学生以下は無料

★定例会議の時間変更のお知らせ★
定例会議は７月より12時半～14時半に変わります！
多くの人が参加しやすいようにしました。ぜひご参加くださいね！

★会員募集中！
年会費　個人 2,000円／団体 5,000円
★カンパの協力お願い
郵便振替　01720-4-23860
和白干潟を守る会

和白干潟の鳥たち（その87）

カルガモ（カモ科 Spotbill Duck）軽鴨［全長61cm］

写真撮影：三宅 僚

カルガモは和白干潟では一年中見られます。冬期のカモたちは雄が美しい羽色になりますが、カルガモは雌雄同色です。褐色で羽や腹は黒褐色で地味な色合いですが、足は赤橙色でチャームポイントになっています。植物の種子を主に食べますが、昆虫類や貝類も食べるそうです。ヒナを連れて歩くカルガモが有名になりましたが、和白干潟では６～7月頃にクリークのアシの陰でかわいらしいヒナを連れたカルガモ親子を見ることもあります。カラスなどの外敵に襲われて、最後まで育つ子は少ないそうですが、真夏になるとカルガモの数は増えているように思えますので、無事に育つ子もいるのでしょうね。声はマガモによく似ていて、グェッ、グェッと鳴きます。（山本 廣子）

◎この干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて作成しました。